

# 県内就職希望77・1%

3月卒  
来高

10月末時点 昨年度に次ぐ高水準

秋田労働局が発表した来年3月の県内新規高卒者の職業紹介状況(10月末時点)によると、県内就職を希望する生徒の割合は前年同期比3・2%増の77・1%だった。1988年度の統計開始以来、昨年度に次ぐ2番目の高さ。同局は、新型コロナウイルスの影響で県外への就職を控える動きがあった2021年度に続き、県内希望が高い割合で推移しているとみる。

新規高卒者7361人のうち、就職を希望するのは1657人で、前回調査の9月末時点に比べて52人増えた。このうち、県内就職希望者は1278人で48人増えた。

秋田労働局は「公務員志望者や進学希望だった生徒の一部が、県内企業への就職にシフトした」とした。

就職内定率は新規高卒者全体で84・2%。うち県内就職希望者の内定率は82・9%、県外は88・9%だった。内定者1396人のうち、県内就職は1059人、県外就職は337人だった。

新規大卒者等の就職内定状況(10月末時点)も発表され、県内就職希望割合は前年同期比1・5%増の48・5%となった。内定率は全体が同0・9%増の76・6%。このうち県内就職希望者は前年同期と同じ68・8%、県外は同1・

2%増の83・9%だった。労働局の担当者は「21年度はコロナ禍で企業側の採用活動が一部遅れたが、今年は通常のスケジュールに戻りつつあり、内定率の推移も順調だ」と話した。

(加藤龍太郎)